

みずゞ俳句会 (長野県・伊那市) 2〜3

令和新緑吟行会 (山形県・小国町) 4

「歌舞伎を詠む」④ 俳人 小泉芝雲 16

にいがた 食の歳時記 ～なす漬～



夏の食卓といえば、何を思い浮かべるだろうか？新潟県民が思い浮かべるものの1つには「なす漬」が必ず上がるだろう。それも、茄子丸ごとの漬物。小さめの「十全ナス」という品種のものが主で、そのままかぶりつく。その味は、スタッフ某が最後の晩餐にしたいという位の美味しさだ。ごはんにも、お酒にもあう。新潟県民は、そんな茄子をこよなく愛している。作付面積日本一、しかし出荷量は10位以下。何と、茄子までも他人には食べさせたくないらしい。シーズンは6月下旬から10月頃まで。その味、ぜひ、現地で確かめてほしい。

喜怒哀楽

詠み人応援マガジン・詩歌俳壇ニユース

「喜怒哀楽」は、文芸を楽しむ方々の活力の源を目指し(株)ミュージック・コーポレーション喜怒哀楽書房が隔月発行している情報誌です。

8-9
Vol.105

温古知新 ⑤ 「菜根譚」29

これから、暑い季節になりますが、「菜根譚」で一息ついていただければ幸いです。今回は105項からです。

爽口の味は、皆、欄腸腐骨の薬なるも、五分なれば便ち殃無し。快心の事は、悉く、敗身喪徳の媒なるも、五分なれば便ち悔い無し。

(美味しい食べ物、胃腸をただれさせ骨を腐らす毒となるが、半分なら害はない。楽しい出来事は、身を崩し徳を失う要因になるが、半分ならば後悔することはない。) 過ぎたるは及ばざるがごとし。何事もほどほどを知ることが大事です。

人の小過を責めず、人の陰私を発かず、人の旧悪を念わず。三者は、以て徳を養うべく、亦以て害に遠ざかるべし。

(他人の小さな過ちを責めず、秘密を暴かず、過去の悪事を恨まない。この三つのことは人格を上げ、害を遠ざけるのだ。)

おおらかな心持で人から好かれるようにすることが肝要なのかもしれません。

士君子、身を持するに軽くすべからず。軽くすれば、即ち物能く、我を撓めて、悠閑鎮定の趣無し。意、用うるに重くすべから

ず。重くすれば、即ち我物に泥まれ、瀟洒活潑の機無し。

(人の上に立つ立派な人は、軽々しい行動をしてはいけない。軽々しく行動すれば、自分を失い、落ち着いてのんびりとした自由がなくなる。しかし、重々しくてもいけない。物にまみれて、すっきりとした活発な動きが出来なくなる。)

その時々にあつた行動ができる人こそ、本当にできた人物と言えるでしょう。

天地は万古有るも、此の身は再び得られず。人生ただ百年、この日最も過し易し。幸い、その間に生まるる者は、有生の楽しみを知らざるべからず、亦虚生の憂いを懐かざるべからず。

(天地は永遠であるが、この身を再び得られない。人生は百年程度で、月日はどんどん過ぎてゆく。幸いこの世に生まれた者は、人生の楽しみを知り、無駄に過ごしたと思わないようにすることだ。)

一度きりの人生。有意義に使いたいものです。

なかなか、程々にすることや、無駄なく生きることは難しいですが、常に心がけて行きたいものですね。

(古川久美子)

「みすゞ俳句会」

南箕輪俳句会

主宰 城取信平様

(長野県・伊那市)



▲城取信平主宰(左)とゲストの月野ぼぼなさん

昨年秋に取材のお願いをしたものの都合が悪くなり、主宰の城取さんの「冬は寒すぎるから暖かくなつてからおいで」の言葉を受け、7月2日ようやくお邪魔することができた「みすゞ俳句会」。東京経由で行ったので、起床からの所要時間は4時間程度でしたが、新潟のお隣り長野県といえども伊那の位置するところは南側、むしろ愛知や岐阜に近い。でも遠いだけに天啓あり！なんと、城取さんと同じ伊那北高校出身の俳人で、2017年角川俳句賞を受賞した月野ぼぼなさんが来

られることが、会場に行つて判明。ちようどお住まいのニューヨークから帰省中とのこと、2年前にも銀漢

俳句会の「纏句会」取材の際に帰省中のぼぼなさんがゲストとして来られ、今日また偶然にここ伊那で再会！主宰からも「なかなか私どもには理解できないような俳句もつくるが、将来を嘱望される俳人である、そんな人が来てくれてありがたいと思います」とご挨拶。

当季雑誌の2句出句のなかから5句選、主宰が順番に講評します。

●4点

失意には泰然であれ夏座敷 四温

城取：夏座敷に対座して、ある人の失意に意見をしているか、あるいは作者が失望し夏座敷の涼しい中でしつかりしなあかんと言っているか、そんな内容かと思う。ただ「失意には」ではなく「失意にも」としたい。「失意には」とすると、人生訓に聞こえる。「失意にも泰然であれ夏座敷」、これで夏座敷の涼しい座敷の様子、そこに座っている姿が見えてくる。四温さんご自身の失意？

作者：私の思う以上に色々と言っている。ただありがたいのですが、これはただの思いつきで…(笑)。

城取：思いつきで言っちゃだめだよ(笑)。これはちよつと失望したこともあったが、自分になんばつてと言いつ聞かせた、とか言ってくれないと。四温さん正直なんだ。

●6点

初夏の風負いか旅人なり 節子

城取：先日山梨の吟行会を詠んだ句だと思つが、今日のゲストのお二人(ぼぼなさんと木戸)がまさにそう。初



▲月刊の「みすゞ」7月号(通巻833号)

夏の風を軽やかに背負つて、句会に参加した。転置して「初夏の風軽やかに負いか旅人なり」の方がいいかな。いかにも旅行者らしい感じがする。俳句はリズムも大事。読んだときさつと体に入ってくるような風、これを詠むことが大切です。

●4点

剪定の松軽やかに座を占める 民子

城取：「座を占める」より「座を占めり」でしょうね。「剪定の松軽やかに座を占めり」その方が存在感がしつかり出る。「庭木は剪定が必要だから、そんなものは植えない方がいい」と言う人もいるが、植わっているものは仕方ない、先祖の贈物だから大事にしな

●4点

梅雨湿り水琴窟の奥底へ ゆう子

城取：うつとうしい梅雨だから、水琴窟も臺の下の方で鳴りましたという句。晴れた日の水琴窟は「カンコーン」ときれいな音だが、梅雨の日はそれは鳴らない、それを詠んでいる。

●6点

紫陽花や鼻くすぐりてパン焼ける 美智子

城取：パンが焼ける匂いで鼻がむずむ

ずしたんだろうね。「パン焼ける」と「紫陽花」の取り合わせが面白い。

●1点

遅霜に苗が底つきよく売れる 由江

城取：需要と供給だね。底をつくといいのは蓄えていたものがなくなるということ。遅霜で苗木が少なくなつたから、うんと売れた。「遅霜に苗が少なくなよく売れる」ということだと思つが、「底つき」でもわかる。

●2点

金印の一字が大きき遠郭公 洋子

城取：金印は黄金製の判印。先日吟行した山梨の大門碑林公園(中国第一級の国宝の名碑を復元し、日本で再現した公園)でのことだと思つ。そこに金印の文字があり、遠くの方で郭公が鳴っている、歴史を思う心情が表われている。

作者：金印が本当に一字だけ大きかつた、「倭奴国王印」と読めました。

●5点

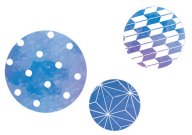
松蟬の声に膨らむ松林 喜久恵

城取：大芝高原の春蟬のことかな。あそこは赤松だらけ、もう松蟬が鳴いていた。わかりやすい俳句だね、リズムがいい。

●5点

卵の花や傾ぐ廃家の平家谷 純夫

城取：平家谷はかつて平家の落人が住んだ谷。新潟県の村上や秋山郷にも平家谷がある。もう家は少なくなつていくが、平家の赤い旗が立っていたりする。かつて平家の住んだ家もすでになくなり、そこに卵の花が咲いている。平家の悲しさを卵の花が象徴している、そういう句。



全国津々浦々、都会であろうと地方であろうと句会は行われています。
今号の「笑顔礼讃西・東」では、長野県伊那市と山形県小国町の句会をレポートします。
そこに詩がある限り——！

●1点
親の姿見てか見て取る田草取り 芳子

城取：田草取り、皆さんしたことある？親の田草取りを見て同じ様に田草取りをしました、という句。今月の「みずぐ」に「沢瀉の花のあわれを二番草」という句をあげたが、沢瀉の花が咲く時は二回目の田草取りの時期。沢瀉の花は綺麗だが、あれをむしり取らなくちゃいけないわけだからね。

●6点
咲き終えて牡丹の花の吐息かな 吉子

城取：牡丹の花は、ぼたんと音を立てて土へ落ちていく。それを比喩として吐息だと言っている。見たことをしっかり身体で受け止めて表現している句。ただ「咲き終えし」としたい。「咲き終えし牡丹の花の吐息かな」で違和感がなくなる。

●4点
梅雨の月寄り添う星やメール来る ゆう子

城取：おそらく「見て見て、梅雨の月に星が寄り添っているよ」というようなメールがきたことを詠んだのでしょう。「梅雨の月に寄り添う星やメール来る」がいいかな。

●1点
ビル五階蟻の一匹うろろうす 洋子

城取：これは城取信平が東京に行った姿だね(笑)。私みたいな田舎者は、都会の5階に上がっていてもうろろうして蟻のようだと。蟻を擬人化した面白い句。

作者：これは写生句です。蟻は「どこに行ったらいいのかな？」というように、東京のビルの5階で本当にうろろう



▲当日は夏至から十一日目の半夏生。半夏生の花とともにニコリと。

ろしていたのです。

●4点
病癒えし師のコカリナや若葉宿 喜久恵

城取：かつての恩師の病が癒え、コカリナを吹いてくれたと。若葉宿とコカリナの取り合わせがうまい。コカリナを吹く人の姿やその場面が見えてくるような句。若葉宿がぐつと落ち着かせよう。コカリナ「や」も効いている。

作者：高校の同級会をしました。80歳になる先生は肺に影があつて手術したそうですが、「病巢の場所と名医に恵まれて今ここにいます」と。今、コカリナの市民講座もされていて、とても嬉しかったので。

●2点
富士山は指差す方らし梅雨の旅 都
城取：吟行会するとき、「あの向こうに

富士山があるんだよ」と。我われは東京へ行くとき、「ああ、見えた見えた富士山が見えた」と必ず指を差す。そういうことだね。

作者：富士山は少しも見えませんでした(笑)。

●3点
明るさの残る夕餉や冷や奴 定子

城取：夏至の宵の感じ。まだ明るさが残っている時間帯、夕飯に冷奴が出てきましたよと。そんなことを詠んでいる。冷奴、美味いね。

●4点
傘立の水甕に罅夕郭公 彰

城取：水甕に雨傘がいっぱい立っている。長い年月が経ちその水甕に罅が出てきたと。罅と郭公とは面白い。

●6点
まだ星の匂いの残る草を引く ぼぼな

城取：「まだ星の匂い」だから、朝方の草刈りを詠んでいる。リズムもいい。

●11点
螢火の縫れあうとき聞かう ぼぼな

城取：11点で今日断トツの句。辰野のほたる祭りもう終わった？

作者：その辰野のほたる祭りで作りました。はじめは冷夏で螢は出ないと言われていましたが、少し蒸した日で、たくさん見ることができました。女性：上手だね(笑)。本当に胸を打つ句をつくりますね。今日はすばらしい句に出合えて感激です。

城取：昔は周辺に螢が舞い、竹ぼうきで採ってきては寝床の蚊帳の中へ放して寝ていた。ヘイケボタルではなく、ゲンジボタルね。ゲンジボタルの光は

強く、光る間隔も長いので、優雅な感じで色もいい。

★句会が終わると、皆さんがサツと動き、第二幕目へ。各人持ち寄りの手作りの漬物合戦が展開され、あつという間に紙皿は各々の漬物やお稲荷さんなどでいっぱい!! 歓待くださるお気持ちがあつたにうれし限り。女性陣は句会後のこの時間が楽しみということ、毎回開催されているとのこと。手際の良さからも、そのことが伝わってきました。伊那は確かに遠く、田舎ではありますが、豊かな人と心、自然に包まれた街でした。(木戸敦子)



▲手作りの漬物などが皿いっぱい



▲手づくりの品々が首尾よく分けられる

令和 新緑吟行会

たにし会 (山形県・小国町) 宙の会 (東京都・国分寺)

5月30〜31日、山形県の南端、豪雪地として名高い小国町の「たにし会」と東京・国分寺の「宙の会」のメンバー合同による「令和 新緑吟行会」に同行しました。これは「宙の会」のメンバーの一人が、故郷の「たにし会」にも所属していることから、この新緑の美しい時期に合同で吟行会をしよう！ということで開催されたもの。

東京から新幹線で来新した「宙」ご一行5名を新潟駅で出迎え、木戸の車で一路秘境小国町へ。待ち合わせた駐車場で「たにし会」メンバー13名と合流。旅館のバスに乗り換えて、合計18名で横川ダム、基督教独立学園高等学校

校、樽口峠などを巡ります。これ以上は望めない好天のなか、道すがら谷空木、藤、桐の花と初夏の花々が出迎えてくれ、基督教独立学園の方々も歓迎くださいました。

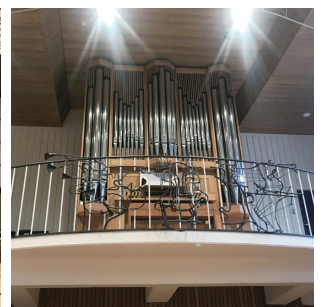
5月のやわらかで、でもしつかりとした光の中、木々を吹き抜ける風とともに聞くパイプオルガンの音色。その賛美歌のメロディーに合わせて、たにし会の方がきれいな声で歌います。心が洗われるような余韻を抱き、本日のお宿、国民宿舎梅花皮荘へ。

さーて、ここでざぶーんとひとつ風呂浴びられればいいのですが、ここからが頭の悩ませどころ。今日見たり聞いたりしたことを、吟行句として出句しなければならぬのです。それもタイムリミットの時間までに!! 皆さん真剣です。でも、それが終わればその後は、お楽しみタイム! たくさんの山菜料理

と渡部会長の美しい踊りとカラオケ。瞬く間に夜は更け、翌日の句会へ。



▲会長による「佐渡おけさ」



▲全寮制、普通科一学年25名の基督教独立学園高等学校。体育館にあるパイプオルガンを設立者鈴木彌美氏の娘と子どもさんが奏でてくださいました。

たにし会の皆さまの心を尽くしたおもてなしと、小国の自然の豊かさ、美しさに感激した2日間。名残りを惜しみながら、小国を後にしたのでした。

★その後、次回はぜひ東京で句会を! というところで9月か10月に、小国のメンバーが上京し「敬老親和句会」の計画も着々と練られているとか。俳句は人生を豊かにする、俳縁万歳!!を目の当たりにした感です。(木戸敦子)



▲車窓からも木々の溢れるような緑が迫ってきます



▲絶景かな絶景かな 飯豊連峰の雄大な山並みを一望できる樽口峠にて

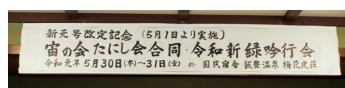


▲昭和42年の羽越水害後に建設された横川ダムにより38戸の住居が水没。ダムや石碑を見る一同

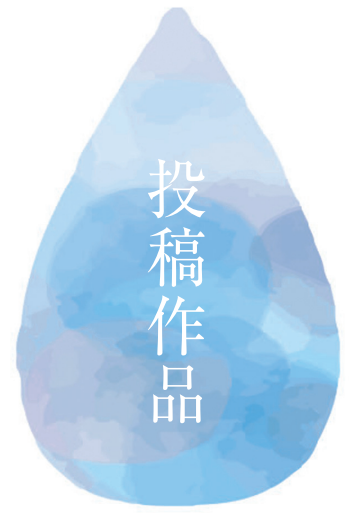
- ◎ 高得点句より
- 9点 谷空木沈みし村の供花と咲く とんぼ
- 6点 若葉風ダム湖に宙の広がりに 織女
- 5点 オルガンを弾く手の優し桐の花 陽子
- 5点 鉄線花言訳かぬ妻となり 昌晴
- 5点 万緑にパイプオルガン響く村 敏子
- 4点 読みつらき父の句帳や紙魚走る 京子
- 4点 初つばめ逢わせたき人連れて来る 勝子
- 4点 聖五月オルガニストは聖和子 肇
- 4点 蝶のごと土間に入りくる日傘かな 金太郎



▲元校長先生 たにし会会長の渡部仁さん



投稿作品



川柳

- 1 幸せの計りお金は脇に置く
木村洋一(新潟県)
- 2 母の味ルーツ辿れば祖母の味
細川光子(栃木県)
- 3 消印のようにハッキリしない人
丸山芳夫(東京都)
- 4 米中に月光仮面いたならば
原 崇雄(埼玉県)
- 5 自分が好き明日の自分もつと好き
小山恵美子(大阪府)
- 6 今日も無事明日の予定を決めて寝る
守屋高雄(岩手県)
- 7 人生のアクセルをまた踏み直す
長谷川庄二郎(千葉県)
- 8 暮しにも一球欲しい遊び球
石原 岳(群馬県)
- 9 プラごみが生態に悪危機感を
久保壽雄(北海道)
- 10 昼時の婦人の語り場ショッピングモール
大木和男(埼玉県)
- 11 ラインではヒソヒソばなしひたひたと
関本 守(新潟県)

俳句

- 12 終戦の荷物おろして振り返る
鈴木義雄(福島県)
- 13 難聴を聞こえるふりは付焼刃
奥 那子(大阪府)
- 14 薔薇に棘あって男は燃え上がる
目黒豊光(福島県)
- 15 隠蔽と付度蔓延永田町
橋本世紀男(東京都)
- 16 久し振り一家団欒いいものだ
中林恵子(大阪府)
- 17 カップルで歌う二人は人の妻
小山泰正(新潟県)
- 18 行き暮れて湖の夕照月見草
環 順子(東京都)
- 19 手作りのゼリーを崩す匙三つ
天野輝子(東京都)
- 20 あと五年働くつもり大夕焼
井原毬子(東京都)
- 21 青空の広がりが好き夏に入る
竹本美美子(新潟県)
- 22 打ち水や心の涼も打ちにけり
内河邦久(東京都)
- 23 本棚はタイムカプセル土用干
川口 襄(埼玉県)
- 24 廃校の軒が賑やかつばめの巣
和崎治人(山口県)
- 25 夏の空母の遺骨を胸に抱き
小田ゆかり(新潟県)
- 26 滴たれる宮居に日露戦殒碑
津田卿雲(岡山県)
- 27 金持になつた気分や小判草
本郷民男(東京都)
- 28 銀嶺の里は桜桃紅ほのか
古閑智子(神奈川県)
- 29 沙羅の花並べて結ぶ恋みくじ
椋本望生(大阪府)
- 30 卑しくは生きぬと沼の墓
鈴木清子(埼玉県)
- 31 田植すみ過疎が一段深まりぬ
岩崎弘舟(岡山県)
- 32 七変化雨後の口紅濃かるべし
近藤ともひろ(千葉県)
- 33 右に傘弓手に杖や梅雨寒し
三津木俊幸(千葉県)
- 34 友逝きて形見になりし夏暖簾
堅田秀子(東京都)
- 35 ミモザ咲くトレドの丘のグレコかな
島村幸重(兵庫県)
- 36 村医者 of 代替となる初夏の風
清まさじ(静岡県)
- 37 ダム湖過ぎ昔茅場の蕨摘む
津布久信雄(東京都)
- 38 夕闇に瀬音誘ふ螢狩り
杉原明子(静岡県)
- 39 風まとふ彩とりどりの更衣
上村元義(神奈川県)
- 40 行く春や煉瓦がつしり水路橋
佐野和彦(静岡県)
- 41 眠る児にやさしくかける夏羽織
関山恵一(神奈川県)
- 42 向日葵や笑顔揃へて南向き
西條公雄(埼玉県)
- 43 省みることの数多や鹿鹿鳴く
大谷 茂(埼玉県)
- 44 風に乗る藤のシャワーに身を寄する
片山茂子(埼玉県)
- 45 池の面に豆粒ほどの蓮芽吹く
高崎登喜子(東京都)
- 46 紫陽花の雨に彩増す日なりけり
道給一恵(埼玉県)
- 47 みちのくに友の墓訪ふ梅雨入かな
小島岳青(新潟県)
- 48 散る桜波乱の平成幕降ろす
齋藤光雄(新潟県)
- 49 令和号出發進行五月空
居原田暹(大阪府)
- 50 幼児語のよじれカタコト若葉萌ゆ
星 一子(神奈川県)
- 51 父の声思ひ出したくなまり煮る
赤池英津子(東京都)
- 52 あかときの雨に声張る時鳥
小澤円梨(静岡県)
- 53 摘みたき孫のいちもつ天瓜粉
村田吉雄(東京都)
- 54 おじいちゃんあれ何の鳥黒揚羽
井上静夫(栃木県)
- 55 俳諧に求めし矜恃天の川
有坂馨園(福島県)
- 56 七変化人の心はよめぬもの
檜山柚子香(東京都)
- 57 紫陽花の鮮かなりし雨あがり
田中恵美子(山形県)
- 58 ホームとて住めば都よ山法師
岩村 昇(神奈川県)
- 59 帙表紙夢二の描く春の雪
浦橋渴雪(兵庫県)
- 60 念力のゆるむ雨雲えこの花
梶 鴻風(北海道)
- 61 梅雨さ中富士山暫し姿消す
大場伸月(長野県)
- 62 亡き父の尺八の音や夜の秋
堀木和子(大阪府)
- 63 訂正は令和と書く五月一日
山崎吉晴(群馬県)
- 64 川光る若鮎の苔噛んでいて
湯浅芳郎(岡山県)
- 65 そら豆をつまみ損ねし曾孫の顔
古谷 力(東京都)
- 66 往くほどに梅雨の激しさ壇の浦
松尾らん(東京都)

- 67 どくだみの波紋を描く半日影
溝畑美代子(埼玉県)
- 68 母の日や弟の絵のカーネーション
五十嵐睦博(新潟県)
- 69 炭坑絶えて一面芒原となり
濱田イサオ(福岡県)
- 70 楚々として一隅照らす海芋かな
九法活恵(埼玉県)
- 71 SLに花菖蒲がおでむかえ
杉村美保子(岩手県)
- 72 英語中国語も呑みこんで奥へ入瀬溪流
白松いちろう(千葉県)
- 73 省くこと俳句に似たり松手入
阿部徳夫(宮城県)
- 74 見事なり歩道の脇を五月かな
宇都木安子(東京都)
- 75 春が過ぎ夫婦で手植えの棚田かな
齋藤博洋(秋田県)
- 76 父の日や差しつ差されつ涙酒
阿部澄江(宮城県)
- 77 横丁へついと靴音夏の月
川嶋法子(東京都)
- 78 万緑を見知らぬ人と分け合へり
木田亜津子(兵庫県)
- 79 青梅の落ちてバウンドする余力
日名子春実(群馬県)
- 80 蟻の旅道中奉行指揮をとる
青木日出男(群馬県)
- 81 縁涼みおのづと遠き日のことを
高松玲子(埼玉県)
- 82 錆の音やきしむ棧橋涅槃西風
井上氣海(広島県)
- 83 たんぼのわたげの様に姉の逝く
中嶋清子(佐賀県)
- 84 タノシンデカエンナさくらアジアンカップル
安部 哲(新潟県)
- 85 無駄といふ事を好まず生身魂
小林七重(新潟県)
- 86 歳時記に父のメモ書き梅雨深し
長峰正晴(千葉県)
- 87 さつぱりとレンジの汚れ梅の雨
山田富朗(埼玉県)
- 88 謙信の隠し湯巡り山女食ぶ
吉里ひとみ(東京都)
- 89 雨ふれば雅び名に酔ふ花菖蒲
宮崎見昭(埼玉県)
- 90 草の葉のスベリ台より飛ぶ螢
松前邦広(千葉県)
- 91 階を一段登る朴の花
中島光江(埼玉県)
- 92 無人駅ごつたがえして花火の夜
中村康浩(福岡県)
- 93 一人言呟きながら盆用意
金子範子(高知県)
- 94 昔日の夢覚めやらす夜の短か
中田文子(大阪府)
- 95 独り居のくらし素となり冷奴
田中 昶(鳥取県)
- 96 緑陰や男の背中に葉のかたち
多田文代(東京都)
- 97 カメラへのいい顔に倦み濃紫陽花
望月哲土(東京都)
- 98 チューリップ花折る子の夢ろくろ首
田中こづえ(北海道)
- 99 咲き満つる薔薇丹精を誇ること
大阿久雅子(埼玉県)
- 100 水鉄砲水の力を借りにけり
桜井葉子(千葉県)
- 101 香水の匂ふ漢とすれ違ひ
平林義康(兵庫県)
- 102 共白髪咩そうだねと日向ほこ
藤井春三(埼玉県)
- 103 微笑仏心をまるくトマトもぐ
北野耕兵(千葉県)
- 104 緑さす森や拳式のリハーサル
本庄準也(埼玉県)
- 105 少年の画布はみ出せり夏の海
寺内 侑(埼玉県)
- 106 秩父路に絵筆は緑だけで良し
大塚徳子(埼玉県)
- 107 悠然と見せびらかして錦鯉
重原爽美(新潟県)
- 108 北国の空眼にうかぶラベンダー
岩田 信(神奈川県)
- 109 きまじめは父親ゆずり柿若葉
井田由利子(宮城県)
- 110 花は葉にそして実になる速さかな
鏡たか子(山形県)
- 111 女子会箸待つのみの夏料理
大野寿子(大阪府)
- 112 リハビリや落葉踏み手を繋ぐ
間森 坦(兵庫県)
- 113 あらがふことをわすれて生きるどんこ
福岡 悟(東京都)
- 114 ざわめきに山荘とびだすこ来光
磯部 力(新潟県)
- 115 神域の木立に密と二輪草
神 一男(静岡県)
- 116 冷奴無聊の一日暮れにけり
村山徳英(埼玉県)
- 117 父の日や男もすなる日傘欲し
伊藤 修(埼玉県)
- 118 帰省子の幼にかへる笑顔かな
高野ほづ子(千葉県)
- 119 辻芸の客は病葉のみとなり
すずき笑子(東京都)
- 120 紫陽花やパレットに足す白き色
中野勝子(鹿児島県)
- 121 散歩犬突如掘り出すモグラかな
柳澤京子(宮城県)
- 122 挽ぎ立ての茄子の触れ合ふ音のする
青木涼子(埼玉県)
- 123 さわやかや国語辞典の革表紙
浅海和代(東京都)
- 124 夏野菜めぐみの雨に生きかえる
田村よし(茨城県)
- 125 きじ鳩のくぐもり声やむかへ梅雨
貝瀬光洋(神奈川県)
- 126 葉柳や外湯めぐりの下駄の音
一瀬正子(埼玉県)
- 127 仄かなる人の移り香更衣
青木ケン子(埼玉県)
- 128 サイダーのシユワツと胸を凌ひけり
今井勝子(新潟県)
- 129 薫風や引籠り家の窓開く
夏井寛治(新潟県)
- 130 令和の夏やさしき雨を願うのみ
中山日出子(大阪府)
- 131 梅雨入りや胸の芯まで染みてをり
中川義彦(新潟県)
- 132 なつぞらや天までとどけ夢求め
五味田幸夫(東京都)
- 133 父植えし味狭藍の花香り良し
宇田川正雄(埼玉県)
- 134 一気飲みビール醍醐味喉仏
仁藤ひろじ(埼玉県)
- 135 草引きや知らぬ小花に手をとめて
渥美 保(滋賀県)
- 136 萬緑の谷戸のぼり来て風に海
中澤寿美(神奈川県)
- 137 翾やかな後姿の白日傘
橋本良子(埼玉県)
- 138 遠足のおむすびひとつ母の味
本間 進(新潟県)
- 139 主なくも生家に盛り花つつじ
本間ミネ(新潟県)
- 140 歩かねば老が追いつく桜道
倉沢ひとみ(静岡県)

141 肩を組む鉄像や枇杷熟るる
藪原保子(東京都)

142 万緑の中を一筋谷の川
吉村充治(埼玉県)

143 蓮咲くや稚児大師の細目して
高草久枝(東京都)

144 尾が見えて青大将か動かざる
佐藤 信(神奈川県)

145 夕風や悪政阻止の民の声
齊藤安弘(神奈川県)

146 窓越しに見おろす緑いつまでも
原田治男(東京都)

147 無人駅青田の風の吹く中に
唐木孝年(神奈川県)

148 三日見ぬきゅうりの蔓の行方かな
鈴木公子(千葉県)

149 年少組の同じ筆跡星まつり
若林卓宣(三重県)

150 郭公の一声今日の活となる
木村 舳(山形県)

151 花合歡のごと寝かせたや虐待児
清水君江(埼玉県)

152 五月雨に色をつけたきラムネ色
若月理依子(新潟県)

153 創作の中に生きたる金魚展
高垣勝代(大阪府)

154 大利根ゆ逆波ゆるり梅雨出水
光成高志(千葉県)

155 夏芝居の人氣攫ふや勸玄君
小泉芝雲(千葉県)

156 石段の杖に氣遣う夏の蝶
岡村君枝(茨城県)

157 洗濯鉢つけたまま来る夏帽子
坪井研治(東京都)

158 早苗田に月光ゆれる大空知
柴田恵美子(北海道)

159 八つ橋の先譲り合ふ花菖蒲
若井令子(兵庫県)

短歌

160 そのかみの授乳風景健やかなり乳
房は二つ育児のシンボル
阿部 至(埼玉県)

161 晴れの日に紫陽花愛でて妹の預か
り犬と散歩歩し
大橋絵代(千葉県)

162 空梅雨にいまいち冴えぬ紫陽花七
変化待とう悪き花ことばよ
濱崎祥子(鹿児島県)

163 シーサイドタワーの天空回廊に燦々
と陽の我等照らしぬ
関原幸子(東京都)

164 令の字は規則の意なり美しは整然
の意なり無用な付度
石尾曠師朗(東京都)

165 祝傘さして歩もう八十路かな時に
は肩を雨に濡らして
土屋喜雄(山梨県)

166 十勝野にあこがれ住みしが防風林
伐られ渦巻き空おおう土
早坂絃司(北海道)

167 妃殿下となりそして今皇后二度の
パレードもお顔華やか
佐伯セツ子(香川県)

168 候補者の顔ポスターの貼られるも
無投票にて村議選終
桑原謙一(群馬県)

169 九条は世界にほこれる宝物変えちゃ
いけねー足しちやいけねー
黒澤正行(福島県)

170 紫陽花の海に埋もれて佇めば波間
なみまに日傘が動く
野木宗信(奈良県)

171 残り物食材生かし節約を今日の一品
酢豚仕上る
大鳥居牧子(東京都)

172 ウインドウ丸い背中の吾がいて腰
を伸ばして口角あげた
田中豊恵(新潟県)

173 もう二度とけがはすまいと心に強
く願うも自作あらず
渡部美代子(山形県)

174 砂に書くあなたの名前を消してゆ
く波に聞きたい「お元氣ですか」
寒川靖子(香川県)

175 西の空何にたとえん神の国後光の
ごときうるわしき雲
本田智恵子(東京都)

176 戦時下の闇に螢は乱舞せり再び見
たし淡き光を
久本にい地(岡山県)

177 採りたてのまっかなトマトまるか
じり幼なにかえり笑みがこぼれる
森 由恵(奈良県)

178 令和なり雅子皇后日にちに立ち上
りたり音もすこやかに
高須 孝(愛知県)

179 あぜ道が真直ぐ続くグリーンの広
田に初夏の陽ゆらぐ
高橋登志子(新潟県)

180 自分史を語り合う友喜寿越えて振
り返りみればそれぞれの道
合田浩子(茨城県)

181 元氣付けたまに誘う回りすし復興
半ば眉の濃き友
守安幹男(岡山県)

182 平成の御世も令和と移り来て両陛
下への感謝極まる
峯岸信子(東京都)

183 山里の「猿鹿きけん」の看板を見
てすぐそこに猿のあらはる
中沢敬子(千葉県)

184 佐渡島かそかたしかむうれしさよ
北陸の海おだし平らか
内藤明子(東京都)

185 「戦闘機2強支配」に胸を張り「老
後2千万」には知らんぶり
坂元正憲(東京都)

186 若き頃田畑の暮らしに馴れなくて
今は野菜を育てる楽しみ
西山知子(岡山県)

187 返上が頭をよぎる年令となり罪人
のごとハンドル握る
岩崎令子(大阪府)

188 真夏日の夕陽沈みし夕間暮れ微か
にそよぐ風の涼しさ
早坂保文(宮城県)

189 台風の進路と地震は連動す東海地
震迫り来る秋
中村万年青(京都府)

フォトイック

こちらの写真を見て詠んでいただき
ました。

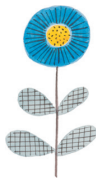


(写真提供：伊丹三樹彦さん)

190 カンガルー暑さに負けず頑張っ
て
天野輝子(東京都)

191 カンガルーの親子仲良く夏休み
井原毬子(東京都)

- 209 草原の先は海原波しぶき
檀山柚子香(東京都)
- 208 一時ひとときの和なぐカンガルー梅雨晴間
小山恵美子(大阪府)
小澤円梨(静岡県)
- 207 油断するな命をねらう者ひそむ
星 一子(神奈川県)
- 206 生き物の憩いの時や梅雨晴間
居原田暹(大阪府)
- 205 母子絆カンガルーに見做うべし
齋藤光雄(新潟県)
- 204 炎暑とて住めば都のカンガルー
高崎登喜子(東京都)
- 203 少子化は人の世のこと鴉の子
関原幸子(東京都)
- 202 カンガルーの親子のんびり睦み合う
片山茂子(埼玉県)
- 201 風薫る大地に命いやしをり
佐野和彦(静岡県)
- 200 炎天や尻尾一役カンガルー
近藤ともひろ(千葉県)
- 199 昼寝せり母のひと言五月蠅しと
濱崎祥子(鹿児島県)
- 198 ねえ、あなた術後の経過もいいそうよ
岩崎弘舟(岡山県)
- 197 えさが来た早く行こうまっ先に
鈴木清子(埼玉県)
- 196 拗ねる子に手を焼く母よ大西日
椋本望生(大阪府)
- 195 鈍色の風の連れくる子鹿かな
古閑智子(神奈川県)
- 194 カンガルーイクメンパパもいるのかな
津田卿雲(岡山県)
- 193 カンガルーも長閑かな午後や夏愛す
和崎治人(山口県)
- 192 令和と共に前進あるのみカンガルー
長谷川庄二郎(千葉県)
- 210 相続の家族会議もひと休み
長谷川庄二郎(千葉県)
- 211 豪州へ民泊の孫今女子大生
岩村 昇(神奈川県)
- 212 わが母国一周すればこの通り
坪田勝秀(鹿児島県)
- 213 それぞれに昼寝の姿カンガルー
梶 鴻風(北海道)
- 214 妻と子を見守る薄目と大ふぐり
大場岬月(長野県)
- 215 ぐうたらぐうたらの夫に息子ほら立って
高田一葉(新潟県)
- 216 小春日や寛ぐ家族カンガルー
山崎吉晴(群馬県)
- 217 のどかだなカンガルー一家梅雨晴間
石原 岳(群馬県)
- 218 あんた誰何見てんのヨーほつといて
佐伯セツ子(香川県)
- 219 南方の飛蝗でござるカンガルー
有田裕子(北海道)
- 220 派が痛い平和を知れるカンガルー
五十嵐陸博(新潟県)
- 221 長き尾で泳ぎも得意カンガルー
九法活恵(埼玉県)
- 222 ねー坊やお散歩ですよおきなさい
田中豊恵(新潟県)
- 223 平和なり家族と過こすひと日かな
阿部徳夫(宮城県)
- 224 半夏生我が子見守る母の愛
宇都木安子(東京都)
- 225 いつまでも親子三人しぬるまで
阿部澄江(宮城県)
- 226 いつまでも心配なのよ母さんは
川嶋法子(東京都)
- 227 長き日を母の庇護なる影にかな
日名子春実(群馬県)
- 228 その人見せ物でないよ行きなはれ
長峰正晴(千葉県)
- 229 雪まつり三カンガルー考える
安部 哲(新潟県)
- 230 砂浜で仲よし友と春うらら
渡部美代子(山形県)
- 231 鳴り渡る三時の鐘や昼寝覚
宮崎見昭(埼玉県)
- 232 子育ての母に父親無関心
松前邦広(千葉県)
- 233 二本足リュックに子供しんどいな
奥 那於子(大阪府)
- 234 母さんのお腹から出て日向ぼこ
大阿久雅子(埼玉県)
- 235 人間よこの情愛を見習うべし
久本に地(岡山県)
- 236 梅雨晴や自由広場の白撮かな
藤井春三(埼玉県)
- 237 カンガルー地球の未来カンガエル
橋本世紀男(東京都)
- 238 健康で親子仲良く憩なり
高橋登志子(新潟県)
- 239 東の間の家族団らん梅雨晴れ間
井田由利子(宮城県)
- 240 足よりも太いしっぽの日向ぼこ
鏡たか子(山形県)
- 241 あなた駄目！私この子の味方です
合田浩子(茨城県)
- 242 日もすがら籠ゆるむこと爽気分
福岡 悟(東京都)
- 243 カンガルー満持してをり梅雨晴間
神 一男(静岡県)
- 244 光る目を逃れて一家一休み
守安幹男(岡山県)
- 245 私には見えますカンガルー家族愛
田村よし(茨城県)
- 246 カンガルーしっぽみつめる鳥の子
白戸麻奈(東京都)
- 247 走り出し休みをとるかカンガルー
五味田幸夫(東京都)
- 248 その君急ぎなさいよ陽が落ちる
仁藤ひろじ(埼玉県)
- 249 梅雨晴れ間少し休んでから行くよ
橋本良子(埼玉県)
- 250 カンガルー親子一緒に遊んでる
西山知子(岡山県)
- 251 カンガルーほんのりすすす親と子と
本間 進(新潟県)
- 252 カンガルーくんのんびり何を見てい
るの
齊藤安弘(神奈川県)
- 253 三様のやすらぎのあり陽をあびて
岩崎令子(大阪府)
- 254 カンガルー枯野に長き影を曳く
光成高志(千葉県)
- 255 カンガルー憩う家族の梅雨晴間
岡村君枝(茨城県)



俳句・川柳募集!!

右の写真から、自由にイメージし五七五(俳句か川柳)で表現してください。応募はアンケートハガキ投稿欄にて。お待ちしております！
(写真提供：伊丹三樹彦さん)



「投稿作品で心に残ったものは？」の問いに、たくさんの回答をお寄せ頂きありがとうございました！その中で特に多くの評価を集めた作品と、それを選んだ理由の一部をご紹介します。
※大賞と自句自解コーナーは年1回です。

◎短歌部門

8 「透析は痛い」と泣く82歳涙の夫を
ただ抱きしめる
濱崎祥子(鹿児島県)

・老夫婦の愛情の深さに感動しました
土屋喜雄(山梨県)・ニュースで知り
そうだったのかとつくづく思いました
佐伯セツ子(香川県)・出来る事は抱
きしめる事だけです 大木和男(埼玉
県)・老老介護大変です。妻に救いを
求めて頼りにする。その慈悲・奥様の
夫婦愛が感じられます 井上氣海(広
島県)

18 離れ住む夫の訃報を聴く朝に春雷
はげし夢か現実か
岩崎令子(大阪府)

・他人事の世界が、後期高齢の私にも
着実に迫ってきました 早坂絃司(北
海道)・これはびっくりするでしょう
青木日出男(群馬県)・離れて住む最
愛の夫の訃報が届く。折しも雷鳴轟く
朝「夢であつてくれ」と願うも…。現
実は切なくて悲しい 坂元正憲(東京
都)・母の訃報を聴き同発想をもちま
した 五味田幸夫(東京都)

◎川柳部門

35 行かぬのがご供養になる家族葬
丸山芳夫(東京都)

・不義理かと思つたら供養とはありが
たい 木村洋一(新潟県)・たくさんの
人を招いて盛大な葬儀をやるのなら家
族葬なんかにしない(お別れはしんみ
り)としたい(家族葬) 高橋卓二(新潟
県)・周囲が増えてきました。時代の
変遷でしょうか 守安幹男(岡山県)

46 脳トレに筋トレ今や老の道
佐伯セツ子(香川県)

・人生百年時代とか：脳トレ、筋トレ
何でもして元気でいたいですね 細川
光子(栃木県)・心身共に健康が第一こ
れがすべて 西條公雄(埼玉県)・ボケ
ないために脳トレ筋トレが必要 守屋
高雄(岩手県)

◎俳句部門

60 平成の御世の結びを花吹雪
環 順子(東京都)

・平成の終りはこの句の通り潔く立派
でした 齋藤光雄(新潟県)・平成を御
世と称えられましたことに感銘致しま
した 有坂馨園(福島県)・御世の結び
をと詠んだところが、良かったです
中田文子(大阪府)・平成の終幕が花吹
雪なんと美しく一抹の淋しさも 大阿
久雅子(埼玉県)・舞台の終演を見てい
るような感情になりました 本庄準也
(埼玉県)・年を御世、終りを結び花吹
雪で潔さと淋しさを美しい言葉をつ
かして上品できれいな句になっていま
す 中山日出子(大阪府)

109 叱る父諭す母なき豆の花
関山恵一(神奈川県)

・叱る父、諭す母既になく：「豆の花」
が絶好！ 小島岳青(新潟県)・すでに
みなし子の自分もこの句がうれしい。
季語がいい 坪田勝秀(鹿児島県)・亡
き両親の姿が偲ばれる 望月謙一(東
京都)・父、母いなくなつてその愛情
がわかるものです 平林義康(兵庫
県)・平易なわかり易い句です。人間

いくつになつても親のことが心にあり
ます 寺内信(埼玉県)・今は亡きあの
頃の父、母のひと言ひと言がなつかし
くそして重い： 井田由利子(宮城県)
・子供の頃の思い出が「豆の花」に共
感 倉沢ひとみ(静岡県)・厳父慈母は
昔のことか、さやの中の豆は育つきよ
うだいだ 齊藤安弘(神奈川県)

158 葉桜や列を乱さぬ一年生
齊藤安弘(神奈川県)

・私の窓から見える風景そのものです
小田ゆかり(新潟県)・私宅にも曾孫
の一年生が居りますので、登校を見送
ります 道給一恵(埼玉県)・列どころ
か、人生まで乱す奴もいる 石尾曠師
朗(東京都)・中七に一年生の健気さが
表われています。可愛いですネ 小林
七重(新潟県)・一年生が学校生活にな
じんでいく素直さ愛らしさが「葉桜」
の季語で明るく表現されました 中澤
寿美(神奈川県)・入学して少し学校に
も慣れてきた頃ですが列を乱さぬ緊張
の様子が伝わってきます 佐藤信神
奈川県)・列を乱さぬがいいですね。
俳句は理屈ではないと思います 稲葉
民雄(千葉県)・先生に引率されて学校
から歩いていく初めての社会見学。緊
張の一年生 高垣勝代(大阪府)

◎フォトイック

今回大賞はありませんでした。

◎他にも

2 手をひかれ歩む幼の後につきじく
ざぐに行く投票所まで
阿部 至(埼玉県)

19 令和なるブラックホールに閣僚の
失言続き桜舞い散る
関原幸子(東京都)

26 平成の退位めでたく記念の日ひ孫
誕生戸籍に息吹く
守安幹男(岡山県)

36 アルバムの父は軍服お兄さん
細川光子(栃木県)

43 生きる明日この道がまだおもしろい
小山恵美子(大阪府)

45 生きているだけで毎日忙しい
守屋高雄(岩手県)

49 国会にウン発見器欲しい国
橋本世紀男(東京都)

54 花筵女の尻の混み合へる
二瓶邦枝(埼玉県)

73 達磨さんが転んだ釣瓶落しかな
井上静夫(栃木県)

74 麻醉さめ「生」の実感風光る
長峰正晴(千葉県)

80 新たな世に夢託す聖五月
大谷 茂(埼玉県)

82 梅の香や兜太を偲ぶ男酒
山崎吉晴(群馬県)

89 老いて尚たゆまぬ歩み春惜しむ
道給一恵(埼玉県)

141 身の丈で生きてよしとす春の宵
青木ケン子(埼玉県)

200 仏堂の軒にぎやかにつばめの巢
平山千江(岩手県)

210 生きざるぞ令和の世でも仁王立ち
阿部徳夫(宮城県)

212 眼光の鋭き王者風薫る
神 一男(静岡県)

※今後もふるってご投稿をお願いいた
します！



前回のアンケート
おいしい新米のおともは？

●お漬物

漬物



- 山崎吉晴(群馬県)
- 倉沢ひとみ(静岡県)
- 和崎治人(山口県)
- 柳澤京子(宮城県)
- ほか多数
- 日名子春実(群馬県)
- 長谷川庄二郎(千葉県)
- 清まさじ(静岡県)
- 西條公雄(埼玉県)
- ほか多数
- 中川義彦(新潟県)
- 黒田康子(大阪府)
- 高野ほづ子(千葉県)
- 濱田イサオ(福岡県)
- きゅうりの糠漬
- かぶを切り味噌につけて四〜五日してつまみます
- 夏井寛治(新潟県)
- 本郷民男(東京都)
- 大阿久雅子(埼玉県)
- ごぼうのつけもの
- 有田裕子(北海道)
- 峰岸信子(東京都)
- 田中豊恵(新潟県)
- 関山恵一(神奈川県)
- 我が家の無農薬畑の野菜の漬け物
- 湯浅芳郎(岡山県)
- 青木涼子(埼玉県)
- 佐藤 信(神奈川県)
- 切干大根醤油づけ
- 上村元義(神奈川県)
- 浅漬けの野菜
- 木村洋一(新潟県)
- 重原爽美(新潟県)
- 白菜漬

●たまご



- 野沢菜
- 辣韭漬
- 溝畑美代子(埼玉県)
- 原田治男(東京都)
- 岩崎政弘(岡山県)
- 津布久信雄(東京都)
- 大谷茂(埼玉県)
- 中村忠男(東京都)
- 坪田勝秀(鹿児島県)
- ほか多数
- 魯山人もいつてます様にやつぱり炊きたてご飯にたまごです
- 稲葉民雄(千葉県)
- ほかほかの新米におとすたまご
- 長峰正晴(千葉県)
- 岩村 昇(神奈川県)
- 齋藤光雄(新潟県)
- 吉村充治(埼玉県)
- 中嶋清子(佐賀県)
- 渡部美代子(山形県)
- 家で鶏を飼っていたので子供のころからたまごかけ飯が大好き
- 高松玲子(埼玉県)
- 生卵。手術して退院する度に決まっていたリクエストしています
- 大橋絵代(千葉県)
- たまごかけごはんをお新香で
- 寺内 侖(埼玉県)
- 地卵の黄身かけがいい、調味料は正油だけで
- 松前邦広(千葉県)
- 新鮮な赤たまごはん
- 堅田秀子(東京都)
- 野木宗信(奈良県)
- 亡き母の卵焼が懐かしい
- 古谷 力(東京都)
- たまごやき
- 葱みそを乗せて食べる
- 片山茂子(埼玉県)
- 黒澤正行(福島県)
- 生味噌

●味噌汁

- 南蛮味噌
- ユズ味噌
- キャラブキ、ふきのとう味噌
- 本田智恵子(東京都)
- 金山寺味噌
- 中山日出子(大阪府)
- 阿部徳夫(宮城県)
- 坂元正憲(東京都)
- 具沢山の味噌汁といか刺
- 山田富朗(埼玉県)
- 赤だしの豆腐のおみそ汁
- 一瀬正子(埼玉県)
- 味噌汁があれば最高
- 宇都木安子(東京都)
- 野菜たっぷりのおみそ汁
- 細川光子(栃木県)
- おむすび
- 塩おにぎり
- 島村幸重(兵庫県)
- 小田ゆかり(新潟県)
- 熱々の新米に「塩おにぎり」は最高
- 関本 守(新潟県)
- シンプルなおむすびが最高!
- 小林七重(新潟県)
- 母の温い手でぎつてくれたおむすびが旨い「平和がええな新米がおいしいな」
- 小山恵美子(大阪府)
- 新米を野山でたべる握り飯
- 石原 岳(群馬県)
- 「カツオ」のおにぎり
- 久保壽雄(北海道)
- 自家製梅干しを入れて炊きたてのごはんでにぎった塩おにぎり
- 桑原謙一(群馬県)
- 家内が週2日学校へ行く日に用意してくれる「お握り」
- 伊藤 修(埼玉県)
- のり巻きおにぎり
- 佐伯セツ子(香川県)

●のり

- 塩むすび(塩と梅)
- 中野勝子(鹿児島県)
- のりが一番
- 金子範子(高知県)
- 小山泰正(新潟県)
- 橋本良子(埼玉県)
- 木田亜津子(兵庫県)
- ほか多数
- 瀬戸内産の「焼のり」欠かせません!!!
- 内藤明子(東京都)
- 絶対に海苔です
- 赤池英津子(東京都)
- 海苔の佃煮
- 貝瀬光洋(神奈川県)
- 張山てる子(東京都)
- 新のりをはさんで食べる新米(しょうゆ味で)
- 三津木俊幸(千葉県)
- 故郷高知県四万十川の川海苔である
- 井上静夫(栃木県)
- 富津産の海苔
- 北野耕兵(千葉県)
- 旅行で食べた朝食ののり納豆
- 五十嵐陸博(新潟県)
- 梅干し
- 何と言っても梅干し
- 原崇雄(埼玉県)
- 高崎登喜子(東京都)
- 有坂馨園(福島県)
- ほか多数
- あの酸っぱい味と新米の相性抜群
- 井上氣海(広島県)
- 自家製の梅干しや醤油を二、三滴落として味わう
- 中村康浩(福岡県)
- 納豆
- 納豆
- 松尾正一(岩手県)
- 浅海和代(東京都)
- 森山かほる(熊本県)
- ほか多数
- 納豆は美味な白米には一番ぴったり
- 浦橋克行(兵庫県)



a Questionnaire

・納豆へ玉子やきざみのりやだし粉を入れて
神 一男(静岡県)

●おほか

・おほか(鯉節)かけ御飯
近藤ともひろ(千葉県)

・削りたての鯉節をかけて食べる「猫まんま」
早乙女文子(埼玉県)

●ちりめん

・ちりめん山椒、焼のり
古閑智子(神奈川県)

・ちりめん山椒、松の葉昆布
藪原保子(東京都)

●魚卵

・新米にいくら 内河邦久(東京都)
・イクラ。塩分とコレステロールを気にしながら食べています
今井勝子(新潟県)

・すじこ 大鳥居牧子(東京都)

・めんたいこ 松尾らん(東京都)

・有島和子(東京都)

・岩崎令子(大阪府)

・博多の辛しめんたいが一番
白松いちろう(千葉県)

・熱々の新米に辛子明太子
仁藤ひろじ(埼玉県)

●魚

・鯖の煮つけ 土屋喜雄(山梨県)

・少し塩辛いシヤケ 田中こづえ(北海道)

・鮭の塩焼です 本間 進(新潟県)

・新潟加島屋の鮭 目黒豊光(福島県)

・伊豆稲取の金目鯛の煮付 天野輝子(東京都)

・焼き魚 高橋登志子(新潟県)

・ままかりの干物焼 守安幹男(岡山県)

・新鮮な秋刀魚の塩焼 中澤寿美(神奈川県)

・しらす
大場紳月(長野県)

・しらす 青木ケン子(埼玉県)

・しらす、卵 田中 昶(鳥取県)

・大根おろしとしらす 杉原明子(静岡県)

・生しらすに青紫蘇を添えて 関原幸子(東京都)

・しらすと納豆をかけたごはん 檜山とり子(東京都)

・しらすも納豆もたまごも 多田文代(東京都)

・最初の一膳におかずは不要と思いましたが、二膳目は「しらす」かな 平林義康(兵庫県)

●しらす

・しらす 青木ケン子(埼玉県)

・しらす、卵 田中 昶(鳥取県)

・大根おろしとしらす 杉原明子(静岡県)

・生しらすに青紫蘇を添えて 関原幸子(東京都)

・しらすと納豆をかけたごはん 檜山とり子(東京都)

・しらすも納豆もたまごも 多田文代(東京都)

・最初の一膳におかずは不要と思いましたが、二膳目は「しらす」かな 平林義康(兵庫県)

・しらすとからし明太子。御新香はいぶりがっこ 橋本世紀男(東京都)

●刺身

・お刺身 西山知子(岡山県)

・まぐろの刺身、かつおの叩き 居原田暹(大阪府)

・赤身のマグロ 青木日出男(群馬県)

●何もいらない

・おとも? いらないうんじやないですか 望月謙一(東京都)

・新米だけでおともはいりません 鈴木義雄(福島県)

・ふつから炊いた新米こしひかりにおかずはいりません 村山徳英(埼玉県)

・艶と食感、まず一口はそのまんま!! 九法活恵(埼玉県)

・新米だけで何杯でもいけます 鈴木恵美子(東京都)

・炊きあがる釜の蓋を開ける時の立ち昇る湯気の中の色艶に「おとも」は不要 福岡 悟(東京都)

●その他

・手作りのつくだに 合田浩子(茨城県)

・おいしい我家の栗御飯 田村よし(茨城県)

・塩うに・いかの塩辛 梶 鴻風(北海道)

・イカの塩辛 若月理依子(新潟県)

・するめの丸干 石尾曠師朗(東京都)

・しそ巻みそ(あまからく味つけしたみそをしその葉でくるみ焼いたもの) 井田由利子(宮城県)

・秋茄子 白戸麻奈(東京都)



・新米に漬物と大根と若めの味噌汁一汁一菜シンプルが第一 藤井春三(埼玉県)

・めかぶ(めかぶら) 高橋卓二(新潟県)

・新米の頃は松茸も出ます。香り豊かな松茸ごはん 鏡たか子(山形県)

・きやらぶきの佃煮 高草久枝(東京都)

・大根おろし、のりまき 大木和男(埼玉県)

・大阪名物の塩昆布 奥 那於子(大阪府)

・塩昆布 光成高志(千葉県)

・晩酌です 椋本望生(大阪府)

・とろろごはん 岡村君枝(茨城県)

日本一美味しいと言われている魚沼産コシヒカリ。その産地魚沼市の一番大きな農場で、主にお米やそばなどを作っている魚沼農耕舎理事長の金子芳博さんに新米についてお聞きしました。あー日本人に生まれてよかった!!

皆さん。おいしいお米食べていますか？



魚沼農耕舎理事 金子芳博さん

神奈川で生まれ育った私は「政府標準米」というお米を食べて育った。質より量だったのだろう。黄色い沢庵を載せ、山盛りにして何杯も食べていたことをよく覚えている。大学の時、魚沼出身の友人からお米、しかも新米を頂いた。時は平成5年。そう、あのコマ騒動の年だ。タイ米とのブレンドと比較すべきではないが、まさに衝撃的なうまさだった。うまいお米はおかずも子供もいらぬ。このことが、新潟でお米作りに携わるきっかけだったのかもしれない。

皆さんにぜひ知ってほしいおいしいご飯の炊き方を、一つだけご紹介。研ぐときにボール等へ「先に」水を入れ、お米は後から入れること。それは乾いた米粒にきれいな水を吸わせるため。お米が先では、蛇口からの水流により水が濁ってしまっただけ。たったこれだけ。明日から劇的においしくなったご飯をぜひご笑味ください。おいしい食べ物、人を笑顔にし、幸せにする力があると信じているから。

●魚沼農耕舎オンラインショップ [HP nonuma-agri.shop-pro.jp](http://nonuma-agri.shop-pro.jp)

編集室だより

生きているといろんなことが起こります。一日の中でもあんなこと、こんなこと、ほんといろいろとありますね！ そんな日常に転がる喜怒哀楽を、編集室よりお届けします。

■ ご来社ありがとうございます

6月、東京からたくさんお客様が弊社へおいでくださいました。本が並ぶ部屋で記念写真を撮ったり、製本工場をご覧いただいたり…。



楽しいひとときを過ごさせていただきました。ありがとうございます。ぜひまた、お出でください。

■ 玄関のお花

毎日元気な花を咲かせているニチニチソウ。木戸敦子が毎朝水やりしています。お出での際はぜひご覧ください。



■ 新潟東高校の生徒さんが、私たち取材！

当社より車で10分ほどのところにある新潟県立新潟東高等学校。このたび当高校の生徒さんが、「総合的な探求の時間」授業の一環で、同じ東区にある企業である私たち取材し、魅力を発信する動画をつくってくれることになりました。楽しみです。また次号にて様子を報告させていただきます。

■ カルチャースクール第1回目開催！

多くの方に本づくりを楽しんでいただきたいという想いから、弊社の母体である木戸製本所グループでカルチャースクールを開講。記念すべき第1回が7月2日に行われました。全5回。素敵な思い出アルバムが出来ますように。



次は10月から開講予定です。

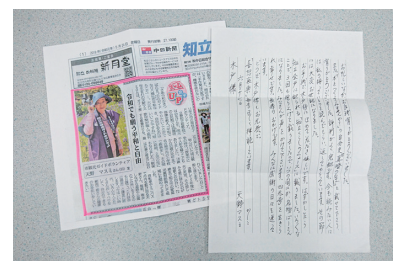
■ お礼

このたびも温かいカンパをくださった読者の皆様、本当にありがとうございます。「詠み人応援マガジン 喜怒哀楽」制作スタッフ一同、厚く、厚くお礼申し上げます。大切にに使わせていただき、よりよいマガジンになるようさらに励んでまいります。



■ 天野マスマミ様、ますますお元気！

5年前当社より『自伝史 真澄の空』を出版された天野マスマミ様（愛知県）から、嬉しいお便りが届きました。「知立くらしのニュース」の“ズームアップ女子”のコーナーに掲載されたとのことで、天野様は大正生まれの93歳になられます。そしてなんと、知立市の現役のガイドボランティア（ガイド歴11年）で、他にも短歌や体操にも親しんでみえます。知立短歌会で『合同歌集 池鯉鮒野Ⅱ』も出版されています。



天野様、これからもお元気で活躍されますことをお祈りしております。

■ 新人スタッフ・松野から

「はじめまして！4月に新卒で入社いたしました、松野沙依（まつのさい）と申します。大学では日本史を専攻していました。毎日元気を爆発させながら自転車通勤しております。少しでも早く皆様のお役に立てるよう、感謝を忘れずに、日々精進して参ります！よろしくお願いたします。」

■ 新年度のスタートに向けて…！

8月から新年度となる(株)ミューズ・コーポレーション 喜怒哀楽書房。現在、経営計画書を制作中です。新しい年度がさらによいものとなるよう、皆で心を合わせて進んでいきます。





《蝦夷人種痘之図》個人蔵
桑田立斎らが蝦夷人に種痘を施す様子が描かれている。



▲桑田立斎

国民文化祭・にいがた2019
企画展示「病とたたかう―
近代医学と新潟県人」1

伊豆名 皓美

令和元年9月15日(日)から11月30日(土)までの77日間、「第34回国民文化祭・にいがた2019」第19回全国障害者芸術・文化祭にいがた大会」が新潟県で開催されます。「文化の丁字路」西と東が出会う「人がたつ」をテーマに、西と東が出会う新潟から「人の文化」を世界へ、未来へと発信する文化の祭典です。

この国民文化祭の事業の一環として、にいがた文化の記憶館で開催する企画展示が「病とたたかう―近代医学と新潟県人」です。この企画展示では、新潟県出身、もしくはゆかりの医学者たちを顕彰します。今号と次号の2回にわけて、新潟の医学者を紹介します。本稿で取り上げるのは、天然痘根絶に生涯をかけた幕末の種痘医・桑田立斎(1811〜1868)です。桑田立斎の功績は、幕末に多くの人々へ牛痘種痘を實施したこと、幕府の命によって蝦夷地(北海道)へ行って牛痘種痘を行い、幕府が牛痘種痘を公認するきっかけをつくったことです。天然痘は、恐ろしい病気です。疱瘡とも呼ばれ、種痘前までは、必ず誰かが発病し、死亡率が高い病気として世界中で流行していました。種痘の効果が認識されていない幕末の時代、偏見や迷信とたたかいながら、立斎は種痘を施し続けたのです。

立斎は、現在の新潟県新発田市に生まれました。父・村松喜右衛門は新発田藩溝口家の家臣でした。幼少の頃から武術だけでなく古典文学、和歌を学び、また儒教の教えや、神仏に対する信仰などを身につけました。27歳の時に江戸深川の坪井信道の日習堂に入門し、蘭方医学だけでなく、西洋医学、天然痘予防のた

めの人痘種痘法も学びました。

31歳の時、師の信道の媒酌で桑田玄真の養子になり、翌年に江戸の万年橋のもとで医院を開業しました。自宅診療とともに、武家屋敷や商家にも往診に出かけました。一方で、川に身投げした人を助けるなど、困った人に手を差し伸べました。ほかにも、親のない乳幼児の保護のために、済幼院設立の願い書を幕府に提出したり、多数の育児書を出版したりしました。

嘉永2(1849)年、立斎が39歳の時、イギリスの村医師ジェンナーが50年前に発見した天然痘予防法である牛痘種痘のワクチン(牛痘苗)が長崎にもたらされました。ジェンナーは、牛の乳しぼりをする人に天然痘患者がいないことに注目し、感染しても発症しない牛の乳首の蒼白い小さな水泡から苗漿を取って人間の皮下に植えるという方法を発見したのでした。立斎は江戸の伊東玄朴からワクチンを分け与えてもらい、牛痘種痘を進めました。同時に、牛痘種痘の啓発にも取り組み、種痘引き札(広告)を数多く印刷・配布したり、『牛痘発蒙』などの関係図書を出版しました。立斎のもとには、牛痘種痘法を学ぶため、多くの人々が入門しました。

安政4(1857)年、開拓中の蝦夷地において天然痘が流行すると、多数のアイヌ人が天然痘で死亡し、約30年間で人口が半分に激減していました。幕府はこの状況を改善するため、正式には認めていなかった牛痘種痘法を行うことにし、桑田立斎と深瀬洋春の種痘医に種痘普及の命を下しました。立斎は門人らとともに、半年で約5500人に種痘を施しました。

立斎は、慶応3(1867)年、中風で半身不随になり、翌年種痘針を持ったまま倒れ、そのまま息を引き取りました。享年58歳でした。立斎の遺志を実質的についでるのは、お玉ヶ池種痘所の出資者の一人、大野松斎です。松斎は関東の様々な場所でも痘苗を植えずぎ、そのおかげで、東京は明治に入っても痘苗に困らなかつたといえます。

● 展覧会情報

天皇陛下御即位記念
第34回 国民文化祭・にいがた2019
第19回 全国障害者芸術・文化祭にいがた大会
にいがた文化の記憶館 企画展示
「病とたたかう―近代医学と新潟県人」
会 期: 9月10日(火)から12月1日(日)
休館日: 月曜日(ただし9/16、9/23、10/14、11/4は開館)
9/17(火)、9/24(火)、10/15(火)、11/5(火)

● 関連イベント

講演会「新潟の医学近代化のあけぼの
―命を支えた医師たちの足跡―」(先着150名)
日本に西洋医学が入ってきた時代、人々の命を支えた医師たちのエピソードについてご講演いただきます。
講師: 蒲原宏氏
(本展監修者・医学史研究者・日本歯科大学医の博物館顧問)
日時: 9月26日(木)午後2時~3時半
会場: 新潟日報メディアシップ2階日報ホール
事前のお申し込みが必要です。詳しくはにいがた文化の記憶館
(☎025-250-7171)までお問い合わせください。

“ありがとう”俳句人生に乾杯!

4

4年間にわたり本誌に「食楽句楽」のコーナーで縦横無尽にペンを走らせていただいた岩田桂さま。俳句によって人生をより豊かで充実したものとされてきた、その俳句人生の一端を6回にわたり雄弁に語っていただきます。

句づくりの基本ルールは3つだけです(続編)

岩田 桂

前編の続きのペンを走らせます。

(1)の(2)、俳句の定形を理解すること。切れ字の入れ方がポイント。

(上五) / (中七・下五)
父の日や 酒を減らせと酒届く

(上五・中七) / (下五)
春浅き海に落とすや 風品の水

(上五・中七・下五) /
ぶらんこの届かぬ空のありにけり

(上五・中七・下五) /
名月を取ってくれりと泣く子かな / 切れ字

切れ字の効果は、壮大な句の背景や空間をもたらします。

(1)の(3)、俳句は主観的な形容詞(喜怒哀楽)や抽象名詞、抽象動詞をしません。眼前の事実を、**客観的な言葉**で表現します。分かりやすい言葉で心のひらめきを表現します。

しかも季語の力を借りて描きます。これを**客観写**生といいます。

具体的な名句を探りながら以上の概念を説明しますと…

くろがねの秋の風鈴鳴いてけり 飯田蛇笏

この名句たるゆえんは以下の解析が証明します。

この句を分解すると…

くろがねの…南部鉄の色(客観的な形容詞)。



秋の風鈴…風鈴は夏の季語です。秋は「秋の風鈴」です。

鳴りにけり…眼前の事実です。

結局この句は…

眼前の事実のみを客観的な言葉で表現しています。誇張や個人の抽象的な感情は入っていません。

しかも読者はこの句から、作者の寂寥感や俳句の風景が見事に見えてきます。万人に同じ句意の空間を正しく響かせます。これが俳句の究極の詩形です。

(1)の(4)、俳句は無言の文学で、説明や理屈を詠むものではありません。

詠者=読者

だから客観的な言葉を使います。ただ指し示すだけの現下直視の文学です。難しい漢字や言葉は使いません。一七文字で描く「心の写真」なのです。

(その他)

・ 歳時記を一冊手もとにおき、季題を常にチェックすること

・ 俳句の基本ルール以外に、具体的な**発想法**のウハウを手に入れること。

・ まず句の材料をどう探すか。それを一句にどうまとめるか。どう表現するか。

このハウツーこそが、句づくりの最大の課題なのです。

・ 日常出合った季語とその背景のポイントを、メモに残しておくこと。

俳句は自分だけの「心の写真」です。初心者も達人もその原点は変わりません。日々の自分の生き様や出会い、事項などを、メモやパソコンやノートに記入して楽しんでください。

第53回「新潟県俳句実作者の集い」ご案内

【日時】令和元年9月16日(月・祝) 午前9:30受付
 【会場】三条東公民館 新潟県三条市興野1-13-70
 【講師】高柳克弘(「鷹」編集長)
 【席題】1句 午前11:00締切
 【当日会費】参加費1000円
 (当日受付へ 席題投句料、昼食代含む)
 【問合せ先】〒955-0844 三条市桜木町9-15
 清水道径 Tel 0256-34-5963

第103回「千代女全国俳句大会」ご案内

【日時】令和元年10月12日(土)
 【場所】千代女の里俳句館・松任学習センターコンサートホール
 【特別講師】小島健俳人協会常務理事
 【参加費】1000円(当日受付、昼食代別)
 【参加締切】令和元年8月31日(土)
 【応募・問合せ先】〒924-0885
 石川県白山市殿町310番地 白山市立千代女の里俳句館 第103回千代女全国俳句大会事務局
 Tel 076-276-0819 Fax 076-276-8190
 メール chiyojonosato@city.hakusan.ishikawa.jp



第36回 信州さらしな・おばすて観月祭 全国俳句大会作品募集

■募集要項

【応募締切】令和元年8月31日(土)
 ※当日消印有効

【応募方法】所定の応募用紙または適宜の用紙に投句料を同封し下記投句先へ送付。応募用紙には、雑詠3句1組、氏名・俳号・フリガナ、郵便番号、住所、電話番号を明記

※投句は何組でも応募可、未発表作に限る ※児童・生徒は一人1句
 ※応募用紙は信州千曲観光局のHPからダウンロード可

(<https://chikuma-kanko.com/>)

【投句料】1組1000円 ※郵便定額小為替が便利です(児童・生徒は無料)

【選者】伊藤敬子/宇多喜代子/片山由美子/金子観石/佐藤文子/水内慶太/宮坂静生(50音順・敬称略)

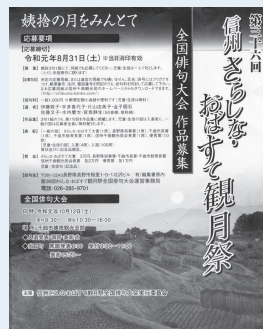
【作品集】3句1組のうち、第1句目を作品集に掲載。

【投句先・連絡先】〒381-2243 長野県長野市稲里1-5-1

北沢ビル 有)龍鳳書房内 第36回さらしな・おばすて観月祭全国俳句大会運営事務局 Tel 026-285-9701

■全国俳句大会

【日時】令和元年10月12日(土) 【場所】千曲市娵捨観光会館
 入選発表、講評、表彰式、席題あり



「ご縁ブック2019」ご注文はお早めに!

※詳細は同封のチラシ参照

野菜のポストカード

1セット12枚入り1000円(送料込み)。
 今回はトマトを同封しました。美味しいそうな野菜で、季節のメッセージを送りませんか。ご注文は同封の振込用紙をご利用ください。



スタッフの一言 Q. おいしい新米のおともは?

木戸 敦子



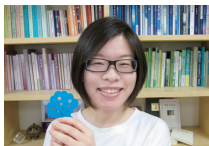
新米のお供です?そんなもの必要ない!! なんて質問しておいてどうなのよ、ってところですが生産者に感謝しつつ目を瞑っていた。あとはしょっぱいものとのコラボ尽くし。

古川久美子



何もつけなくても、お供がなくても食べられる。けれども、ごはんのお供にするなら、しらすか卵か納豆か……。それも、多めに。

菅 真理子



新米の香り、いいですよ〜。まずはプレーンでいただきたいです。おともはお漬物や納豆が良いなあ。ああ、お腹が空いてきました。

松野 沙依



肝がたくさん入った丸干しイカ! 一口サイズにちぎって、お茶碗によそった新米の中に潜ませて、やわらかくしてから食べるのがたまらなく美味しいです。

山田 民子



たまごを無造作にグチャグチャ焼いて、ご飯に乗せます。そこに醤油、マヨネーズ、一味をかけ、かつ込む。出て来る言葉は「美味しい」より「うまい!!」です。

木伏美恵



いろいろ浮かびますが、かおり、艶やかな美しい新米を思うとしおむすびかなと思います。塩は笹川流れの粗塩で。

上村眞智子



あぶらののった銀鮭のハラスの甘塩焼きを少しずつ新米ご飯にのっけていただきます。パリパリで少し焦げ目のついた皮も合います。新潟県人は鮭の皮まで食べると驚かれたことも。

石山由希子



一膳目は何もつけず…おいしい。二膳目は熱いお味噌汁とともに、三膳目(食べ過ぎ)はシンプルに塩むすびで、海苔もつけてね。

吉田 瞳



地元の市場の魚屋さんで買う活きのよい筋子、たらこ、刺身かなー。お茶碗持って食べ歩きしたいくらい(笑)今から秋が待ち遠しいです。

佐々木祥子



そんなにこだわりはないかも。魚料理なら基本なんでもOK。今の気分は、ほかほかの新米に魚の煮付け、タレをかけながら食べたいですね。

歌舞伎
を詠む

夏芝居

小泉芝雲

「夏芝居」とは、歳時記によれば陰暦六月から七月にかけては猛暑と祭礼月なので、歌舞伎役者は本興行を休み、避暑がてら地方巡業に出かけ、その留守に若手が怪談狂言等の芝居を演じた事で、夏芝居と呼ばれる様になったとある。

似顔絵の団扇手にせり夏芝居

水原秋櫻子

幽霊より人が怖きや夏狂言

小泉芝雲

此の事を歴史的に見ると、大物役者が休みを取るようになったのは、享保期（一七一六～一七三六）に二世市川團十郎が賞与として休暇を取った事に始まり、寛政（一七八九～一八〇一）の頃から夏芝居は無人である事が普通となり、これを機に若手が大役を勤めて世に認められたり、二、三枚目の戯作者が頭角を現す事があったのです。例えば、文化一（一八〇四）年七月江戸河原崎座の『天竺徳兵衛韓漸』（鶴屋南北作）では初世尾上松助主演で大当りを取り、文化四年六月江戸市村座で『三国妖婦伝』（南北作・松助主演）としての本興行でも大当りを取ったのです。

夏芝居では、涼味を呼ぶ為に文化期に宙乗り、早替り、本水使用による怪談物が創始されました。例えば南北の代表作『東海道四谷怪談』はじめ噺家三遊亭圓朝の噺をベースにした『怪談牡丹灯籠』、『怪談乳房榎』更には新作で宇野信夫作『巷談宵宮雨』等その伝統は今日まで続いています。

又、純歌舞伎では『夏祭浪花鑑』、『伊勢音頭恋寝刃』、『黙阿弥の『梅雨小袖昔八丈』（通称髪結新三）等がある。特に「髪結新三」は、初夏の江戸深川の風景を背景にした生粋の世話狂言で、初鯉売りの威勢いい売り声や捌きぶりを舞台でみせ、季節感を漂わせている。この芝居は五世菊五郎が得意と

涼味を演出するために、季節感のある演目や怪談物、本水使用や早変わりが行われたという夏芝居。先日、歌舞伎座の3階席のさらに上、一幕見席から碧眼の方に囲まれて見えました。が、多少緊張しつつ十分に堪能できました。

し、その後十七世勘三郎、二世松緑を経て、十八世勘三郎と継いできたのですが、いずれも故人となり当代では七代目菊五郎が当り役としている。粋な浴衣姿での新三の永代橋での名台詞「これ、よく聞けよー」が聞こえてくる様です。

初鯉うる声抜くる長屋路地

佐藤吉之輔

「夏祭」も陰惨ながら舅殺しをする主人公団七の殺しの立ち回りの型は美しく、その団七を演じる当代吉右衛門の芸は素晴らしい（「播磨屋！」と掛け声が飛ぶ）。

前述した出し物は典型的な夏芝居ですが、昭和四六年七月以降は、二代目猿之助（現猿翁）が、古典ものに新演出（ストーリー・スピード・スペクタクルの3S）を取り入れ舞台展開を早めたり、梅原猛と組んで新作物『ヤマトタケル』、『リュウオー』等の所謂スーパー歌舞伎を上演し大好評を得た。更に平成二年から当時の若手勘九郎・八十助が中心となり「納涼歌舞伎」と称し三部制を取り入れ、古典歌舞伎を解りやすくし、新作物『研辰の討たれ』等を多く上演して、若者の人気を得た。しかしその両人が共に早逝したのは残念でならない。

猿之助薄暑五役の早替り

島田房生

が、新元号令和の夏芝居では、幸四郎と猿之助による三谷幸喜作の新作『月光露針路日本』や、海老蔵の通し狂言『星合世十三團』（義経千本桜）をベースにした物語）に於ける十三役の早替り、更には玉三郎の『新版雪之丞変化』に於ける雪之丞が演じられる等、時代の変化と共に夏芝居の在り方も変化し、我々を楽しませてくれます。

本日はこれ切り

2019.8-9. vol.105 (2019年8月10日発行/隔月発行)

●発行・印刷/株式会社 ミューズ・コーポレーション

〒950-0801 新潟市東区津島屋7-29

TEL 025-250-9555 FAX 025-250-9550

0120-819-395 Facebookもチェック

e-mail odp@eseihon.com / HP http://www.eseihon.com

郵便局口座番号 00530-4-81370 口座名 株式会社 ミューズ・コーポレーション

編集後記

先日、芥川賞を受賞した今村夏子さんは「人に会わない仕事をしたい」と絵本作家、漫画家、そして小説家にたどり着いたとのこと。そして、人に会わなくていいと思ったこの仕事は、人に支えられ、そのおかげで今がある、というような話をされていた。今号P2-4の取材でも、人はつながっていて、そのつながりの中で生きていくと改めて感じた次第。「人間」は人の間と書く。会う人は縁ある人で、意味があるからの出会い。そのことを心に留めて、出会った方、周りにいる人という関係をつくり、より「人間」になりたいと思う。（木戸敦子）